

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network 11 / 1

Now

2024 No.587

JART情報
<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2024年度 第4回理事会 開催される (Web併催)

2024年9月14日(土)午後2時より、2024年度第4回理事会が鈴鹿医療科学大学でWeb会議システムを併用して開催されました。理事会開催前には、2023年度物故会員に対してJART記念館前に設置されている顕彰碑への入魂式が執り行われました。

冒頭を上田会長よりあいさつがあり、役員選挙が終わって新しく就任された理事が活動をされて実質初めての理事会であること、豪雨・台風・地震など、これからも発生し得る災害に対し、事前の訓練、ならびに事後対応や災害担当理事への連絡の必要性について述べられました。加えて2025年4月に開催される国際医用画像総合展 (ITEM2025) へのJARTブースの出展、事務所移転の準備状況について説明がありました。

理事会の主な議題は、「2025年度の組織図」「能登半島地震に伴う会費免除」「LINEを使用したプッシュ型広報」「ICTセキュリティ」「補正予算の提案」でした。

園田理事からは、2025年度の組織図について説明があり、認定資格委員会と学術大会運営委員会が常設委員会に変更されることが報告されました。また学術教育委員会のラダー作成委員として、骨関節撮影分科会および消化管画像分科会からそれぞれ1人が担当し、両分科会は発展的解消のため解体されるとのことでした。

界外理事からは、能登半島地震に伴う会費免除について、会員1人より会費免除申請があり、2年間の会費免除に相当するとの説明がありました。

園田理事からは、LINEを使用したプッシュ型広報について説明があり、現在、約100人が登録して試験運用を行っていますが、無料使用範囲の制限を超えている状態であると報告がありました。現状の広報は、ホームページなどに会員が自らアクセスしないと情報を得られませんが、LINEを利用して本会から積極的なプッシュ型配信を行い、会員に向けて



情報を広報したいとのことでした。そのために必要なLINE公式アプリとLメッセージの契約、およびそれに伴う費用について説明がありました。上田会長からは、非会員にも登録を促すべきとの意見が出されました。

江端業務執行理事からは、ICTセキュリティについて、PACS管理などの画像管理、医療機関での情報管理の実態調査と、画像・情報管理に関する国家資格取得状況について調査するとの説明がありました。診療放射線技師は、PACSの管理などを通じて院内の情報セキュリティに関与しているスタッフが多く存在し、ICT分野における国家資格取得者の確保状況など現状の把握が必要になるため、国民医療の安心・安全に貢献できる職種として、本会も情報セキュリティについて積極的に取り組むべきとの説明がありました。それぞれの議案について審議の結果、いずれも全会一致で承認されました。

江端業務執行理事からは、引き続き補正予算に関する提案がありました。定時総会で承認された予算について、監事からの指摘を受け計算式の修正を行ったこと、また予算作成以

降に発生した新たな事業に対する費用計上の必要性も発生しており、補正予算を組むことの説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。上田会長からは、経理担当者が変わったこと、現在は複数人の担当者を充てるなどの対策をしている点について追加で説明がありました。

報告事項として、堀住事務局長から会員動向について説明があり、2024年7月末総会員数が33,519人、58.9%の組織率であるとの報告がありました。他に各地域理事、各種委員会・分科会から39項目の報告がなされ、チーム医療推進

委員会報告では告示研修に関するアンケート調査への協力要請があり、会員の30%からの回答を目指しているが、理事会当日時点でいまだに8%弱の回答率にとどまっていることが資料と共に共有されました。

最後に、上田会長は事業の進捗を管理して会員の信頼を得ていきたいと述べられ、本理事会は終了しました。

詳細は、本会会誌に掲載される2024年度第4回理事会議事録(抄)をご参照ください。

令和6(2024)年度入魂式 執り行われる

2024年9月14日(土)午後1時30分より、令和6(2024)年度の入魂式が鈴鹿医療科学大学で執り行われました。これは前年度にご逝去された会員の魂を本会顕彰碑に入魂する行事です。本年は、9月に入ってからも続いている厳しい暑さの中での典例となりました。初めに、園田理事から令和5(2023)年度の物故会員27人全員の氏名が読み上げられました。続いて上田会長からのお言葉があり、黙とうをささげるとともに、会長、副会長、理事、監事、事務職員らが顕彰碑に献花をお供えし、ご焼香をあげました。厳粛な雰囲気の中に閉じました。改めまして、ご逝去された会員の方々に謹んで哀悼の意を表します。また日頃から顕彰碑を管理いただいている鈴鹿医療科学大学の先生方、ならびに一般社団法人三重県診療放射線技師会役員の皆さまに感謝申し上げます。



第4回MCI(軽度認知障害)予防検査に関する勉強会 開催される

2024年9月9日(月)午後2時より、衆議院第一議員会館第3会議室で「第4回MCI(軽度認知障害)予防検査に関する勉強会」が開催されました。今回の勉強会には厚生労働省と内閣官房からも大勢の担当官が出席し、マスコミも多く傍聴する中、畦元将吾衆議院議員・党副幹事長(本会会員)が開会を宣言し、木原誠二先生(自民党幹事長代理)が開会のあいさつをされました。本会からは上田会長、江端業務執行理事、潮田専門職の3人が傍聴しました。

議員各位の参加では、高村正大衆議院議員、神田潤一衆議

院議員、石原正敬衆議院議員、猪口邦子参議院議員ら、その他にも入れ代わり立ち代わり議員が参加されて大盛況のうちに開催され、本勉強会のテーマが多方面の方々に関心を持っていることが強く印象付けられました。

勉強会では、足立区福祉部高齢者施策推進室室長、文京区福祉部高齢福祉課認知症施策担当主査、神戸市福祉局副局長、エーザイ株式会社代表執行役専務の4人が、それぞれの行っている認知症対策について講演を行った後に、意見交換が行われました。





この勉強会は、MCIの早期発見のために官民連携でMCI検診を実施することと、「認知症は怖くない」と国民が安心する施策

を実現するために開催されています。発表後の意見交換会では、保険承認されたレカネマブの臨床効果や適応に関する最も適切なタイミングや、薬剤体内動態に関する質問、各自治体での認知症または軽度認知症に対する取り組みの紹介、自治体独自の地方税の活用により住民の関心を引くことの効果や、認知症対策事業を継続させることの重要性などが、地域に根ざした自治体独自の視点から紹介されました。まずは検診を受けていただくことの重要性をいかに地域住民に伝えるか、認知症検診受診者を増やしていけるかが大変重要で、症

状が進行する前の、軽度認知症段階でいかに早期発見するかが重要であることは、各参加者からも口々に語られました。

活発な意見交換の後、木原先生より、これまでの本勉強会における講演や意見交換を通じて大いに深まったMCIへの取り組みに関し、厚生労働省の考え方をまとめてくるように進言されました。次回の勉強会では、厚生労働省の軽度認知症に対する将来展望や政策の方向性案、目標などが示されるものと思われま

す。診療放射線技師も画像診断を通じてMCIに関する検査件数が増えることが予想されることから、十分に注意して情報収集に努める必要があると感じました。

上田会長は勉強会の終了後も、参加された国会議員各位や企業関係者、厚生労働省担当官各位と活発な意見交換を行い、日本診療放射線技師会と診療放射線技師の画像診断領域における職能の強みをアピールされました。

(文責：江端 清和)

令和6年度 診療放射線技師職域団体との懇談会 開催される (Web開催)

2024年9月28日(土)午後2時から4時まで、令和6年度における診療放射線技師職域団体との懇談会がオンラインで開催されました。この懇談会には、全国16の職域団体から多数のご参加を頂きました。

冒頭、上田会長からのあいさつがあり、その後、職域団体、本会役員が紹介されました。

続いて日本診療放射線技師会の事業について詳細な報告が行われました。内容は、(1)令和6(2024)年度事業計画の進捗状況 (2)JART Vision 2040の報告 (3)第1回日本放射線医療技術学術大会 (4)JARTの生涯教育ラダー (5)会員限定無料コンテンツの紹介 (6)会員全員保険の紹介 (7)検査説明動画の紹介 (8)甲状腺簡易測定モニタリング (9)生殖

腺防護における鉛シールド廃止 (10)タスク・シフト/シェアのアンケート——について報告されました。

これらの報告を通じて、診療放射線技師の専門分野における最新情報と今後の展望について共有し、質疑を行いました。その後、職域団体から提起された課題や意見について質疑応答が行われ、建設的な意見交換が行われました。協力的な雰囲気の中、懇談会は無事に終了しました。

今後も情報共有をさらに深めながら、診療放射線技師の専門知識や技術の向上を図り、社会に貢献できる取り組みを進めていく予定です。診療放射線技師の役割がますます重要となり、各所との連携を強化し、専門職の発展に寄与していくことを期待します。

国家試験日程決まる

第77回診療放射線技師国家試験の施行について、2024年9月2日付で厚生労働省から報告がありました。

試験期日は2025年2月20日(木)、試験地は、北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県です。試験科目は、基礎医学大要、理工学・放射線科学、エックス線撮影機器学、エックス線撮影技術学、診療画像検査学、画像工学、医療画像情報学、核医学診療技術学、放射線治療技術学、放射線安全管理学、医療安全管理学です。合格発表

は2025年3月21日(金)午後2時です。なお、試験に関する手続きおよび問い合わせ先は以下の通りです。

「診療放射線技師国家試験運営本部事務所」

〒135-0063

東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館7階

TEL：03-5579-6903

2024年度 第1回STAT画像所見報告セミナー 開催報告 (Web開催)

STAT 画像報告委員会 委員長 木暮 陽介

2024年9月25日(水)、第1回STAT画像所見報告セミナーをWebで開催しました。テーマは「頭部領域」で、415人が参加しました。

初めに順天堂大学医学部附属順天堂医院の赤津敏哉委員より、「放射線科医師が求める脳梗塞を想定するSTAT画像所見MRI編」と題して、円滑なSTAT画像所見報告を行うため、脳梗塞の疫学や分類について整理し、頭部MRIにおける拡散強調画像の見え方や、他のシーケンスによる副所見について、症例を用いて解説していただきました。また体動による画質不良への対処方法についても説明していただきました。

続いて刈谷豊田総合病院の赤井亮太委員からは、「放射線科医師が求める頭蓋内出血を想定するSTAT画像所見CT編」と題して、CTにおける頭蓋内出血を想定したSTAT画像所見報告について解説していただきました。CTにおける脳出血はコントラストが付きやすいため、他部位の出血病変に比べて指



JART事務所(中継)より

左から、加藤京一前分科会長、赤津敏哉委員、木暮陽介委員長、片桐江美子委員

摘しやすい疾患といえますが、微細な出血や特徴的な像を呈する出血はアキシャル画像だけでは見落としやすいものも多く、気付かない症例も多くあります。今回は、一般的な脳出血のSTAT画像所見は割愛し、見落としやすい頭蓋内出血や所見報告に迷う症例を中心に、その対策も含めて解説していただきました。

JART会員限定無料コンテンツ ネーミング決定!

INFORMATION

このたびは、JART会員向け無料コンテンツのネーミングにご応募いただき、誠にありがとうございました。皆さまから頂いた128件もの多くの素晴らしいアイデアに、心より感謝申し上げます。

厳正な審査の結果、2024年度第4回理事会において、福島祐平さま(福井県)の提案された下記名称が、今後のコンテンツの充実を最も期待できるネーミングとして選ばれました。

決定名称: 「**JART Plus**」

- 名称当選者: 福島祐平さま(福井県)
- 次点者: 島田勇佑さま(東京都)、千葉大志さま(秋田県) 他1人匿名希望
名称当選者と次点の各位には記念品をお送りさせていただきます。

JART Plus
JART会員無料コンテンツ



「JART Plus」というネーミングは、JARTのサービスに新たな価値が加わることを象徴し、会員の皆さまにとって、より豊かな情報やサービスを提供していくという私たちの決意を表しています。

福島祐平さまの素晴らしいアイデアにより、JARTの無料コンテンツはさらなる発展を遂げ、会員の皆さまにとってより一層魅力的なものとなることと思います。

近々、STAT画像に関する研修コンテンツもJART Plusに加わる予定となっています。改めまして、皆さまのご参加とご協力に心より感謝申し上げます。

JARTISマイページ: <https://jart.my.site.com/crm/s/login?ec=302&startURL=%2Fcrm%2F%2F> ➔



2024年度 第1回画像等手術支援分科会 ハンズオンスキルアップセミナー（初級編） 開催報告

画像等手術支援分科会 分科会長 平野 透

2024年9月29日(日)、株式会社根本杏林堂3F会議室で2024年度第1回画像等手術支援分科会ハンズオンスキルアップセミナー（初級編）を開催致しました。

画像等手術支援分科会では、例年、中級～上級者対象のハンズオンスキルアップセミナーを学術大会とは別日程で開催しており、初級～中級者対象は学術大会期間中に行っていました。しかし、セミナーの時間を十分に確保することが難しく、ワークステーションの基本操作や3次元画像を作成するために必要なTipsなどはセミナー時間に組み込むことが困難であったことから、今回、学術大会とは別日程で約6時間を確保したセミナーを開催致しました。



セミナー前日のリハーサル

受講者が操作をしやすい方法をメンバー全員で検討しながら、約3時間かけてリハーサルを行いました。

初級編でのハンズオンスキルアップセミナーは当分科会としては初めての開催であり、プログラム内容も全て新しいものに変更したため、セミナー前日にセミナー担当メンバーでのリハーサルに十分時間を使って、受講者に分かりやすい講義になるようしっかりと準備して当日を迎えました。

今回、参加した受講者は23人（定員24人）で、初級編ということでワークステーションの使用経験が少ない、または経験がない方も受講されており、分科会メンバーによる実習指導担当者の丁寧なサポートにより、予定通りのプログラム内容でセミナーを終了することができました。またセミナー受講者の年代は20～30



ハンズオンセミナーの風景

今回も受講者の皆さんは^{しんしん}真摯に受講されていました。今回の受講は23人と大人数でしたが、講師を含めたメンバーのおかげでトラブルなく運営できました。

代が多いことは間違いありませんが、40代以降の受講者も毎回ある程度の割合で参加されており、診療放射線技師全般の重要な業務になっていると考えております。また画像作成の標準化や画像処理のスキルアップのためにも、このセミナーが重要な役割を担っていると思っております。

セミナーの最後には、次回、開催を計画しております中級から上級編に関して若干告知したのですが、次回の具体的な日程などを尋ねる受講者もあり、開催側として、セミナーを開催して良かったと^{あと}安堵しております。

新型コロナウイルス感染症も5類に移行してから1年半ほどたち、さまざまな制限が緩和され、受講者も講師・スタッフもマスク着用なしの方が多くなってきており、以前と同じ環境でセミナーが開催できていると感じた、リハーサルも含めた2日間でした。



セミナー終了後、分科会メンバーと受講者の皆さんで集合写真皆さん、Network nowへの投稿を快く承諾いただき、記念撮影をすることができました。

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー 開催報告

静岡県

公益社団法人静岡県放射線技師会 生涯教育委員長 曾我 隆正

2024年9月8日(日)、静岡県放射線技師会事務所で、2024年度診療放射線技師のためのフレッシューズセミナーを開催しました。講義は「入会案内」「エチケット・マナー」「医療コミュニケーション」「医療安全」「感染対策」「被ばく低減」の6科目を4.5時間みっちりで行いました。当日は、朝から気温が30度を超える残暑が厳しい中でしたが、14人の方に参加していただき、会場参加型で行いました。

本セミナーの趣旨は、医療人としての基礎的な知識の習得、診療放射線技師会への入会促進です。それに加え、各講師には診療放射線技師からの視点で講義をお願いしました。会場型にこだわり開催を企画した意図は、フレッシューズの方々に静岡県放射線技師会会長のお顔を覚えていただき、県技師会事務所のご紹介に加え、他施設の診療放射線技師とのコミュニケーションを取れる場を提供したいとの思いです。また本セミナーの参加を足掛かりに、院外の研修会への参加に



関心を持っていただくことの意義もあると考えています。そのため今後もできる限り会場型での開催を継続していきたいと思えます。

最後に、受講者およびセミナー開催にご尽力いただきました講師の皆さまに、心より感謝申し上げます。

鳥取県

一般社団法人鳥取県診療放射線技師会 教育担当 朝倉 頌一

「残暑」

2024年9月22日(日・祝)、秋分の日。暑さが残るこの日、鳥取県内の新人4人にご参加いただきフレッシューズセミナーを開催致しました。講師に県内技師および外部講師を招聘し、クリニカルラダーレベル1の項目を履修致しました。社会人・医療人として半年が経過した今、セミナーを通して伝えたいこと、それは「新人としての自身の構え方」を振り返ることです。振り返りの中で、今の自分に必要なものを見つめ直してほしいという思いからです。以下、講義「エチケット・マナー」から一部を抜粋し、お届けします。自己の健康管理に気を付け、良いパフォーマンスを発揮する姿を期待しています。
・「患者さんファースト」の意識を持ちながら、職場の組織文化・価値観を理解して「チームワーク」を大切に作る姿勢がとれているか



受講生4人と福光開催責任者

- ・素直さ、謙虚さ、思いやり、言葉遣い、態度、身だしなみに気を配れているのか
- ・分からないことは“聞く”
専門外のことは、専門家から教わりましょう
自分勝手な判断はいけません
一人でできることは限られています

業務拡大に伴う統一講習会 開催報告

山形県

一般社団法人山形県放射線技師会 教育委員 吉田 直人

山形県放射線技師会では、2014年の静脈注射（針刺しを除く）講習会の開催を皮切りに、その翌年から業務拡大に伴う統一講習会を例年開催してきました。多い年は年に3回開催していましたが、いわゆるコロナ禍を経験し、2022年以降

の開催は年1回に減少。それでも東北地区の開催県が宮城県と山形県のみであることもあり、毎回20～30人の参加を頂いております。

本年度も山形大学医学部附属病院の施設をお借りしての統



一講習会でした。山形県放射線技師会事務局のすぐ近くに駐車場もあり、いつも大変助かっております。今回(2024年9月28日(土)・29日(日))の受講者は、山形県内・青森県・秋田県・福島県などの東北地区以外にも、栃木県や千葉県からも足を運んでいただき、20人での開催となりました。すでに告示研修を修了されている参加者も多くいたためでしょうか、受講者の皆さんそれぞれが道具や手技に慣れてきており、実習がとても円滑に進行していく印象です。統一講習会や告示研修が、診療放射線技師の基礎的な知識や手技の向上に大きく寄与していると感じさせてくれる2日間になりました。



告示研修 開催報告

愛媛県

公益社団法人愛媛県診療放射線技師会 理事 羽藤 寛文

2024年9月1日(日)、愛媛県では8回目となる告示研修(実技)を愛媛大学医学部で開催しました。愛媛県は東予・中予・南予と3つのエリアに分かれ、東西に長い分布になっていることから、中予エリアに位置する愛媛大学医学部は、他の地区からのアクセスも良く、また自家用車での移動が多い地方のため、受講しやすい環境を考慮して、毎回、愛媛大学医学部さまに協力を頂いています。

2023年度の後半より、診療放射線技師の監督者への起用が始まっていますが、県内のファシリテーターのほ



とんどが実務での行為をしていないことから、研修会の質を低下させないためにも、今回も医師と看護師に講師を依頼しました。愛媛県診療放射線技師会では、受講者に少しでも技術を習得していただけるよう、医師には静脈実技の実習に加えて、RIや下部消化管の研修にも関わっていただいています。また看護師には愛媛大学医学部附属病院で針刺し研修の講師を務めるなど経験豊富な方をお願いをして、実務を見据えた質の高い研修を担保しています。まだ受講されていない技師の皆さまに対しまして今後も多くの受講の機会が得られますよう、愛媛県での開催回数を確保していきたいと思っております。

最後に、この場をお借りしまして、講師の先生方をはじめ、ファシリテーターの皆さま、また会場を提供していただいています愛媛大学医学部さまと病院スタッフの皆さまのご協力に感謝申し上げます。



大分県

公益社団法人大分県放射線技師会 副会長 北里 隆文

2024年9月1日(日)、大分県大分市の日本文理大学医療専門学校で、通算15回目となる告示研修(実技)を開催しました。前日も開催予定でしたが、台風10号の影響のためにファントムなどの資機材が確実に搬送できるか不透明となったため、やむなく中止の判断を下しました。お申し込みされた方には中止の連絡が直前となり、心からお詫び申し上げますとともに、次回以降の大分県での開催に再度お申し込みいただきたいと思っております。この台風で大分県内でも河川の氾濫や土砂崩れなどが発生し、高速道路が通行止めになっている区間がまだ存在します(9月11日現在)。被災者の方々にお見舞い申し上げます。

8月31日(土)午後、資機材の搬入作業と準備をファシリテーターと共に完了させ、翌日の開催にはどうか間に合わせることができました。大分県のファシリテーターや開催役員の強い団結力を身近で感じ、改めて協力していただいた全ての方々に感謝申し上げます。

大分県での告示研修会場は、消耗品保管や資機材受け取りも含めて日本文理大学医療専門学校にお願いしています。その関係



で、母校に戻って受講を希望する県外勤務の方が参加される傾向があります。その日本文理大学医療専門学校も本年度で閉校(日本文理大学 保健医療学部へ移行)することになっています。

大分県での告示研修では、これまで258人(県外受講者を含む)の受講が完了しております。このうち今回の開催は募集定員32人に対して25人の申し込みがあり、うち県内会員17人、県外会員8人の受講でした。

(公社)大分県放射線技師会では19人のファシリテーターを登録しています。土日連続開催となるケースに対応すべく、ある程度のグループ分けをして企画・対応しております。実技指導時間が少ないファシリテーターには、ベテラン指導者とペアを組んで指導のポイントや注意点を習得できるように体制を構築するなど、指導の質向上にも努めています。

今後も、会場選定も含めてより良い告示研修の開催を通じて、大分県内のタスク・シフト/シェアの推進に貢献していきたいと考えております。



新潟県(佐渡)

一般社団法人新潟県診療放射線技師会 会長 金沢 勉

2024年9月15日(日)・16日(月・祝)、新潟県の告示研修(実技)を、今回初めて、離島である佐渡島で行いました。離島で行うのは全国的にも珍しいとお聞きしていますが、JART本部の全面的な協力を頂き、開催にこぎ着けることができました。企画をする上で、講師陣の移動コストと参加者の便宜を考慮したバランスを取ることに気を付けました。その結果、通常は1日の開催ですが、佐渡では2日間に分け、初日の午後に座学を行い、2日目の朝から実技を行いました。事前に受講のニーズを調査して16人定員で募集を行い、直前に1人のキャンセルがありましたが15人の参加者で開催できました。このうち県外の参加者が2人いたことも報告しておきます。

当日は、天候の不安を抱えながらでしたが、何とか予定通り講師陣も佐渡に渡ることができ、順調に告示研修を行うことができました。会場をお借りした佐渡総合病院のスタッフの皆さまに感謝申し上げます。





第41回 日本診療放射線技師学術大会
41st Japan Conference of Radiological Technologists

放射線技術の
イノベーション

〜期待される診療放射線技師の
役割に応えよう〜



2025.
9/12(金)▶14(日)

会場 | AOSSA、ハピリン他
[現地+オンデマンド配信]



<https://www.kwcs.jp/jcrt41/>

会長 | 上田 克彦 (公益社団法人
日本診療放射線技師会 会長)

大会長 | 村中 良之 (公益社団法人
福井県診療放射線技師会 会長)

主催 | 公益社団法人 日本診療放射線技師会

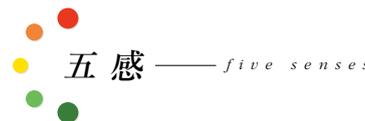
共催 | 公益社団法人 福井県診療放射線技師会

後援 | 厚生労働省、公益社団法人 日本放射線技術学会、
(予定) 福井県、福井市

大会事務局 | 公益社団法人福井県診療放射線技師会
〒910-0851 福井県福井市米松1丁目16-31 NTビル2階
TEL : 0776-57-0696 FAX : 0776-57-0699
E-mail : 41jcrt@gmail.com

自分自身の心理的安全性を高めよう

シリーズ連載
series serialization



近年、職場での心理的安全性（Network Now 2024年3月第579号「五感」参照）が重要視されるようになったと感じる一方で、心理的安全性が軽視されている職場（やグループ）もあると感じます。

本稿では、もしも職場の心理的安全性が低かったとしても、自身の心理的安全性を保ち、仕事にやりがいを感じるための方法をご紹介します。

【自分自身の心理的安全性を保つ方法】 ①自己肯定感を高める（日々の小さな成功や進歩を記録し、自分を褒める習慣を付けましょう）②信頼できる同僚との関係を築く（職場内で信頼できる同僚を見つけ、サポートし合う関係を築きましょう。互いに励まし合い、情報を共有することで、心理的負担を軽減できます）③フィードバックを前向きに捉える（ミス指摘された場合でも、成長の機会と捉えましょう。改善点を見つけることで、自分のスキルを向上させることができます）

【仕事のやりがいを感じるための方法】 ①目標設定と達成感（自分自身の目標を設定し、それを達成することでやりがいを感じることができます。短期的な目標と長期的な目標を設定し、達成した際には自分を褒めましょう。あらかじめご褒美を用意しておくのもアリ）②新しいスキルの習得（新しいスキルや知識を学ぶことで、仕事に対する興味ややりがいが増します。JART e-ラーニングや都道府県技師会セミナーなどに参加してみるのも良き）③イベントやプロジェクトへの積極的な参加（自分が興味を持てるイベントやプロジェクトに積極的に参加すると、モチベーションが高まります。信頼できる仲間づくりにつながるかもしれません。可能なら、自分の意見を提案し、プロジェクトに貢献することを目指しましょう）

まずは自分一人で始められる心理的安全性対策。知っていることばかりかもしれませんが、もし、まだ行っていないことがあれば、1つでも始めてみませんか？（文責：武藤 裕衣）

11月・12月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 骨関節撮影分科会セミナー : Web開催 2024年11月20日(水)
- 放射線取扱主任者定期講習 : 東京 2024年12月20日(金)
- 放射線治療分科会生涯教育セミナー(治療計画・実践編) : 東京 2024年12月21日(土)・22日(日)
- 認定資格試験 : 全国のCBTテストセンターのパソコンで試験を実施
(テストセンター一覧: <https://cbt-s.com/examinee/testcenter/>) 2025年1月17日(金)まで
- 画像等手術支援認定診療放射線技師資格試験 : 全国のCBTテストセンターのパソコンで試験を実施
(テストセンター一覧: <https://cbt-s.com/examinee/testcenter/>) 2025年1月17日(金)まで
- 医療安全管理者養成研修 : Web開催
 - ・インターネット配信研修: 2024年11月15日(金)午前10時から2025年1月31日(金)午後1時まで
※インターネット配信研修は、配信期間中であれば繰り返し受講可能。
 - ・集合研修 : 2025年2月9日(日)【オンライン演習】
※集合研修の受講は、インターネット配信研修(36時間)を全て受講した者に限る。

■ 告示研修(実技研修)／業務拡大に伴う統一講習会／診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型) : 本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

[e-ラーニング(ストリーミング方式)]

- 告示研修(基礎研修) : 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー : 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修(在宅) : 2024年12月20日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2025年1月26日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格の取得を目指す在宅講習受講生の募集・ラダーレベル3 : 2024年12月20日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から各認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格失効者講習会(在宅) : 2024年12月20日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2025年1月26日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 災害支援認定診療放射線技師講習会(事前e-ラーニング学習) : 2024年12月22日(日)まで申し込み受け付け
※視聴期限は2025年1月18日(土)まで。視聴開始日は別途お知らせ致します。
※実地研修会は2025年1月19日(日)。

■ オンラインセミナー(在宅) : 本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

事務所案内

執務時間: 月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日~1月3日)は執務致しません。